

うば 奪われたあなた方よ

清らかなる光り
舞い輝くとき 音もなく
世界の海のここ かしこから
起き 立ち上がる
あなた方。

黒闇の海底は揺れ
海の慟哭がわき上がる。

清らかなる光り
舞い輝くとき 音もなく
世界の大地のここ かしこから
起き 立ち上がる
あなた方。

蒼ざめた地の底は揺れ
地の慟哭がわき上がる。

戦争にいのち
奪われたあなた方よ。
あなた方がいま
その至純なる眼のうちに映し
とられているものは 何か。

息き絶えなるとするとき
なぜ と叫んだあなた
息き絶えなるとするとき
お母さん と叫んだあなた。
息き絶えなるとするとき

無言のまま ただ
蒼天を見上げるだけであったあなた。
あなたの虚ろなる眼が いまはの際に
映しとつたものは 何か。

天空に慟哭が満ちわたる。
姿なきあなた方よ。
あなた方はいま
大いなる光輪のもとに集われた。
石が哭く そこに。
草が哭く そこに。
波が哭く そこに。
空が哭く そこに。

あなた方が まっすぐに
見つめようとするのは 人間。
その昔 すでにして
「罪悪深重・煩惱熾盛」と
呼ばれていた人間。

人間が 自然の主人に
なろうとしたことは おのれの無明に
火を放つことであった。
姿なきあなた方よ。
あなた方が いま静かに
見つめておられるのは
そのどす黒い無明の炎であるのか。

炎と化した無明は
西風にのつて 地球を一巡し
全世界に黒炎の嵐を呼び起こした。
火焰にのまれた大地。
くり返し焼かれた大地。

炎はさらなる黒炎を呼び
うねり狂い 押し合い
返し合い 燃え重なり
生きとし生けるもののいのちを
呑み
いつそう燃え盛り
海を沸騰させた。

ついには 天空を切り裂いた。
戦争に正義という名の
冠をかぶせたのは 誰か。

あなた方は すでにして
数知れない悲しみを
堪えてきたというのに
なお 人間の悲しみを
悲しもうとされるのか。
打ち震える悲しみ
切り裂かれた天空に
一滴の涙が光る。
姿なき方々よ
全世界の数知れない仏さまよ。

いまこそ わたしたちは
あなた方に倣いたい。
大いなる光輪のもとに集われたあなた方
仏さまよ。
生きとし生けるものの
いのちを
絶え間なく称えられるあなた方
仏さまよ。

真実の智慧をもって
世界の平和を願われるあなた方
仏さまよ。

わたしたちは いまこそ
あなた方を称えよう。
あなた方は あなた方の願いを
わたしたちが わたしたちの
願いとすることをお許し下さるか。
わたしたちはいま わたしたちの
悲しみを自らの悲しみとして下さる
あなた方とともに
仏さまよ
いのちの声をいただこう。

なむあみだぶつ
永遠なるいのちよ 光栄あれ。
仏さまとともにある平和よ
永遠なれ。
なむあみだぶつ
なむあみだぶつ
なむあみだぶつ
なむ

ついで ちょう うた 追弔の偈 戦争にいのち

原子爆弾を爆発させた人間。
もの言わぬあなた方よ。
わたしたちはいま まっすぐに
見つめられる あなた方に。
無明に酔いしれているわたしたち
罪に罪を 重ねんとしている
わたしたち。
あなた方の
深い沈黙からの眼差しに
わたしたちはいま まっすぐに
見つめられる。

何をなすべきか わたしたちは
いのち奪われたあなた方が
いのち奪われてなお
生きとし生けるもののいのちを
見守らんとしているとき。
蒼ざめた耳底に
あなた方の澄みきった声が聞こえる。
あなた方の声。
いのちの声。
その声。
なむあみだぶつ

作詞 高 史明

謹んで、阿弥陀如来、宗祖親鸞聖人、ならびに三世十方の諸仏如来にもう
しあげます。

本日ここに、有縁の同朋あいつどい、「アジア民族の解放と、大東亜共栄圏の
建設のための聖戦」という大義名分のもとに、周辺諸国の人びとの生活の場
を踏みにじり、耐えがたき惨禍をもたらした罪過を懺悔するとともに、戦禍
に倒れられた全ての人びとのいたみと悲しみを憶念しつつ、全戦没者追弔法
会を厳修いたします。

私たちは念仏者として、あらためて先の悲惨な戦争を省みますとき、私ど
ものこころの奥底に渦巻く煩惱の闇にまなこを閉じていたことが、全ての過ち
の根源であったことを、教えられるのであります。それを宗祖親鸞聖人は、自
我に立つ善は雑毒の善であると仰せられています。その教えの言葉を忘れ、顛
倒してきたのです。

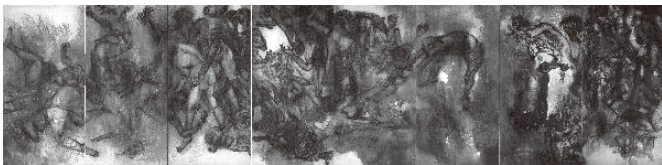
私どもは、いまここに立って、仏の本願の教えに背いた罪、世界各国、とりわ
けアジア諸国の人びとに計り知れない苦痛と悲しみを強いてきた数々の罪、
それらの罪を背負いながら、懺悔の道を歩む以外にありません。

私たちにいよいよ求められているのは、時代の本質を見抜く智慧のまなこで
あり、再び過ちを繰り返さないという決意であります。

私たちはいま、ひとえに仏の教えに随い、仏の意に随い、仏の願いに随って、自
己の煩惱の闇を教えの光に照らされつつ、ともに生きあえる世界への道を歩ま
んことを、ここに誓うものであります。

二〇一五年四月二日

釋淨如



丸木位里・俊「原爆の図」第2部 火

国家として起こした国と国との戦争であっても、それを経験した人たちがそれぞれに、加害と被害の歴史が刻まれています。「原爆の図」と山本宗補さんの写真に描かれた人たちが一人ひとりを見つめ、さまざまな境遇の中で刻まれた、加害と被害の記憶をたどりたいと思います。

期間

3月27日(金)～4月27日(月)

開催時間

9時から16時まで

会場

参拝接待所ギャラリー

主な展示内容

●丸木位里・俊「原爆の図」
(原寸大複製画展示)

●山本宗補「戦後はまだ・・・刻まれた加害と被害の記憶」写真展示

●「私にとって戦争とは？平和とは？」

『同朋新聞』拡大パネル展示

●聖人の仰せになきことを仰せとして
(大谷派の戦争責任)パネル展示

4月2日 木

「戦後七十年」と聞くといささか気が重くなる。政界でも「従軍慰安婦」問題などが再燃し、あらためて「歴史認識」の検証が問われている。宗教界も「同和・靖国」の揺れが続いているが、動きは萎なえている。

しかし現実社会は「核放射能と原発」問題や沖縄の基地問題、憲法無視の軍備増大など、国民の運命にかかわる大問題にゆれている。これから一段と激しくなる「軍備拡大」とナシヨナリズムの傾向などに、私たちはどう対応していくのか。そこには、これらの私たちの社会的責任・戦後責任があらためて問われている。

そこで、私たちの現状を見なおす意味からも問題提起をしたいと思います。

鈴木 徹衆

1931年生まれ。
東京教区東京2組乗願寺前任住職。
日本宗教者平和協議会元理事長。

